

# 平成25年度事業計画

大正6(1917)年に、澤柳政太郎が日本の初等教育改造を志し、実験的教育の場として創設した成城小学校から始まる成城学園は、平成29(2017)年に創立100周年を迎えます。

幼稚園から大学・大学院までを擁する総合学園として、これまで様々な分野に個性豊かな有為の人材を数多く世に送り出し、社会の発展に貢献してきた成城学園が、100年の伝統にさらに磨きをかけて未来に輝き続けるため、建学の精神をあらためて確認し策定したのが、以下の「成城学園第2世紀ビジョン」です。

- \*「感性」を磨き、「知性」を高める学園
- \*「個」を鍛え、「社会性」を育む学園
- \*「日本」を知り、「世界」を理解する人を育てる学園
- \*「自然」に学び、「街」とともに歩む学園
- \*「学術研究」を深め、「教育研究」の成果を実践する学園

この成城学園の第2世紀ビジョンに基づく各校、大学学部および大学院研究科のミッション・ビジョンを掲げ、各々の特徴を生かした教育目標の実現と教育および研究活動のさらなる充実を目指します。

成城学園が「一人ひとりがしっかりとした自分を持ち、未来を切り拓いていける人材を育成する学校」であるためには、成城教育を再構築し、具体的な教育研究改革を実践しなければなりません。そのための中長期的な各種諸施策を本年9月までに策定する予定です。

特に本年度は、「自学自習」「自治自律」という学園の伝統を踏まえた主体的な学修の場の提供、急速にグローバル化が進む現代社会の中で、語学力の強化ばかりでなく、園児・児童の頃から国際感覚を育てる施策、ワンキャンパスの立地を生かした各校間連携の一層の強化策、学術研究の成果を発信し続けることにより、今まで以上に教育研究成果を高める施策、並びに、教育環境面として、奨学金制度充実のための第3号基本金の組入れや、大学図書館・ゼミ室の一部改修による学習環境整備に着手して参ります。

また、学園の安全対策として、引き続き、危機管理・防犯体制の強化に取り組みますほか、省資源・省エネルギー対策を実施して参ります。

## 平成25年度消費収支予算概要

平成25年度の消費収支予算では、学生生徒等納付金は、平成25年度在籍者数の見込みおよび各校納付金額の改定により、対前年度1,400万円増の84億6,400万円を計上いたしました。手数料(入学検定料)は、近年の志願者数の推移から、ほぼ前年度と同額の3億7,200万円を計上し、寄付金についても、

近年の納入実績から一般寄付を積算し、特別寄付を含め、対前年度2,200万円減の2億5,100万円を計上しました。補助金は、国庫補助金の配分基準改定後の実績から、対前年度4,200万円増の11億7,000万円を計上いたしました。その結果、帰属収入合計では、106億1,400万円と、対前年度比5,700万円の増額となりました。基本金組入額は、学園内教育環境整備費、教育研究用機器備品、図書の購入等により第1号基本金が5億1,600万円、施設設備整備費等の先行組入れによる第2号基本金が3億円、新たに創立100周年事業として第3号基本金に奨学金計画組入額2,000万円を加え、合計で8億3,600万円を計上いたしました。この結果、消費収入の部合計では、対前年度1億2,700万円増の97億7,800万円となりました。

一方、支出面では、学業優秀者に対する奨学金1,800万円、東日本大震災被災者への学費援助特別措置2,600万円等の奨学金の充実、交換留学生、国外留学生、認定留学生、私費外国人留学生への支援2,700万円等の国際交流促進、各所照明器具改修工事4,700万円等の省資源・省エネルギー対策、哲士寮耐震改修工事4,800万円等の防犯・防災対策、データバックアップ基盤の構築等の危機管理に係る経費等に重点配分したほか、「創立100周年教育環境整備事業」に関する経費の発生に備えた予備費の増額計上により、消費支出合計は98億8,400万円、対前年度1億2,100万円の増額となりました。その結果、当年度消費収支は1億600万円の支出超過といたしました。

## 各学校の取り組み方針および施設設備計画

### 大 学

#### ■ 教育面での事業

##### 1. 教育改革の推進

平成26年度に予定されている成城学園第2世紀プランの公表に向けて、大学の教育研究改革の骨子を策定すべく、各学部が行うカリキュラム改革の大枠として、以下の諸課題の実現に向けて検討を進める。

<検討中の課題>

- ① 半期15回の授業実施
- ② GPA(Grade Point Average)制度の導入
- ③ 系統的履修のためのナンバリング制度の導入
- ④ セメスター制度の導入
- ⑤ 秋卒業の実施
- ⑥ 他学部・他学科科目の弾力的な履修制度の導入
- ⑦ 入学時の全学的な英語統一試験の実施

##### 2. アクティブラーニングが可能な学習・研究環境の整備(図

書館・4号館・3号館)

教室のみならず、学内の各所に学生の自学自習や大学院生の研究が可能となる環境を整える。

①オープングループワークスペースの創設(1階)

②新刊雑誌コーナーの移設

③休憩室の改修(2階・3階)

④グループ学習室の改修(地下1階)

⑤共同研究室の改修(2階・3階)

⑥コモンズスペースの創設(3号館雑誌室)

⑦経済学研究科院生研究室(4号館2階)の研究環境整備

⑧3号館ゼミ教室改修

### 3. 学内ICT (Information and Communication Technology) 環境の整備

①教育用PCの更新に伴い、授業や学生の自習など利用することができるPCの台数を565台から約700台に増設し、授業でのPC利用環境の改善と学生向けICT環境の強化を図る

②学内各所(図書館1階等)への無線LANの敷設

### 4. 学費支援制度等の拡充

①東日本大震災被災者の支援の継続

②特別奨学金制度の拡充

③留学支援金制度の新設

### 5. 国際交流事業の活性化

グローバル社会で活躍できる人材を着実に育成するための事業を実施する。

①留学生向けの授業科目の拡充・多様化

(英語による授業や外国人留学生向けの日本語授業)

②海外短期語学研修の多様化

③協定校の拡充による交換留学生(派遣・受入)の増加

④学園内各校との国際交流関連事業での連携強化

## ■ 研究面での事業

### 1. 外部からの競争的研究資金獲得の推進

成城大学研究機構による事務処理の整備により、科学研究費補助金(科研費)等の外部資金の獲得をさらに積極的に進め研究の活性化を図る。

### 2. 研究成果の発信

平成24年度より国立情報学研究所の提供する共用リポジトリを利用し、本学所属研究者による研究成果(研究論文等)をWebで公開し始めたが、今後も掲載内容の拡充に努める。

### 3. 民俗学研究所創設40周年記念行事

### 4. ナトルブ文庫(貴重書)の永続的な保存へ向けた脱酸処理および補修を開始

## ■ 広報活動の活発化

### 1. 各学部・大学院研究科のオリジナルホームページを更新し、日常的に研究・教育活動の内容を掲載することで本学から

の情報発信を強める。

### 2. すべての学部がオリジナルパンフレットを作成し、それぞれの学部の教育・研究方針、特色を明確に学外に示す。

## ■ 危機管理体制の確立

### 1. 災害への対策

地震や火災等の災害を中心とした危機管理体制をさらに強固にするために、継続的な訓練やマニュアル等の整備を進め、また備蓄物資の増強を図る。

①防災・防犯対策やマニュアルのさらなる整備

②継続的な訓練の実施と訓練内容の充実

③夜間・休日等における対策の確立

④備蓄物資や資材の増強

### 2. 本学学生の事故・事件への対応

留学生や休暇中の学生の事故・事件への対応策について、マニュアルの整備を進める。

### 3. データバックアップ基盤の構築

大規模災害までを想定した情報インフラ整備の一環として、学内の重要なデータを遠隔地に保存し、災害発生時の復旧に備える。

## ■ 学生サービス面の事業

### 1. キャリア支援部と就業力育成支援室の統合による学生支援体制の一元化

両部・室の組織を統合してより一元化した学生サービスを実施する。また従来の就業力育成・認定プログラムを継続して推進するとともに、大学間連携共同教育推進事業を新たに開始する。

### 2. 学生支援体制の整備

カウンセラーを増強することで、より充実した学生相談を可能とする。併せて、バリアフリー委員会を本格的に稼働することにより、障がいを持つ学生への支援体制の強化を図る。

## ■ 学生生活におけるアメニティの改善

### 1. 学生生活を支える施設・設備の改善について引き続き実施する。

5号館トイレ改修工事(3期目)

## ■ 施設・設備の整備面での事業

第2世紀プランでの施設・設備の整備を考慮しつつ、緊急に必要な改修工事や計画的な機器の更新を進める。また特に防災関係・安全対策を中心とした施設・設備の整備を進める。

### 1. 改修工事

①文連クラブハウス・武道場改修工事

②第1体育館 男女更衣室・シャワー室塗装工事

③2号館屋上アーチェリー場改修工事

- ④1号館北面サッシ・正面玄関改修工事
- ⑤7号館照明器具改修工事
- ⑥トレーニングセンター空調機改修工事

## 2. 安全対策関連工事

- ①文連クラブハウス放送設備新設工事

## 3. 5号館改修計画の検討

法学資料室の床面荷重過多による耐震上の問題やより効率的な諸室の配置について、全学的な委員会を設置して検討を進める。

## ■ その他

### 1. トレーニングセンターの完全業務委託化

専門的な知識や技術を有するトレーナーを十分に配置しつつサービスの質を維持するとともに、人件費の抑制に努める。

### 2. 第64回四大学運動競技大会の当番校としての開催

## 中学校高等学校

## ■ 教育面での事業

1. 「自学自習」、「自治自律」の精神に基づき、学習活動・行事・部活動など学校生活を通して、生きる力の源泉となる基礎基本を充実させるとともに、「個」の力の充実・育成に力を注ぐ。
2. 文部科学省新学習指導要領実施(中学校2年目、高等学校入学より全面改訂)に伴う新しい中高一貫カリキュラムを展開し、全体的な学力向上とともに、十分な教養を身につけさせ、活力溢れる学校生活を支援する。
3. 2年目となる中学1年次30人8クラス編成によるきめ細かい指導を通して中高6年間の学びの基礎を固め、中学校生活への順応性を高める。
4. 中高英語教育の充実を目指し、少人数分割授業、習熟度別授業編成の実施を通して、質の高い英語教育を実践する。
5. 成城学園第2世紀プラン実現のための検討。

### <検討中の課題>

- ①定期時間外学習の導入
- ②『学び合い』を取り入れた授業改革
- ③卒業論文・卒業研究や生徒版『研究助成』の導入
- ④地域の人々やOB・OGとの連帯(キャリア教育)の強化
- ⑤生徒会・自治会活動の活性化
- ⑥スケジュール帳(中1で実施中)など自己管理を促す方法
- ⑦LMS(Learning Management System)の導入のための研修
- ⑧中高で校舎が一つになることによる行事や諸制度の検討

## ■ 施設設備面での事業

1. 各教科機器・備品の必要な更新を行い、充実した授業を通して学習成果の向上を図る。

2. 老朽化した諸設備の必要な更新を行い、安全・快適な学習環境を確保する。
3. 中高PC教室の機器・ソフト更新とネットワーク環境の改善を行い、充実した情報教育を実践する。

## 初等学校

## ■ 教育面での事業

1. 100年プランの継続研究『新カリキュラム作りと具体化の推進③』(11年目)

### \* 100年プランにおける初等学校の姿

『基礎・基本をしっかりと身につけさせ、さらに人間関係を深めていける場としての学校』

100年プランは「基礎学力の向上をめざす」「人間関係の充実を図る」の2本柱である。2017(平成29)年度完全実施に向け、2014(平成26)年度から新カリキュラムへの移行を目指している。

「基礎学力の向上」については、4年生以上への国語・数学半数授業(週2回)の導入、1年生からの英語の実施、映像と情報を統合した「メディア科」の新設等を検討している。また、「人間関係の充実」を図るために新教科「つながり」を特設することも検討している。

今年度は、これまでの試行期間を経て、1年1学期より「数学」(週2時間)を実施するなど具体化を進めるとともに、新カリキュラムへの移行に向けた最終調整を図るつもりである。

また、この新たな教育改革(100年プラン)については、今年度中に在校生保護者・受験を考える保護者に向けて丁寧に広報していきたい。

### 2. 入試改革および入試広報活動の推進

昨年度同様、積極的かつ誠意ある広報活動を行うとともに、志願者数減少の要因を探り、入試改革も含めた「入学試験のあり方」について、初等学校だけでなく学園全体で検討すべく、積極的に働きかけていきたい。

### 3. 学内広報・情報提供のあり方の検討および他校との交流

さまざまな形で学内広報・情報提供のあり方を検討していきたい。また、幼稚園と初等学校、初等学校と中学校との交流の場を積極的に模索していきたい。

### 4. 積極的な安全教育の推進

引き続き「みんなで安全! みんなが安心!」をスローガンに、積極的な安全教育を推進する。初等学校の実態に即した「防犯・防災危機管理マニュアル」の改善を図り、「実」のある訓練を実施したい。

### 5. ルール・マナー教育の推進

引き続き、「知っているし、しているよ」(頭でわかっているだけではダメ! しっかり行動できる人間になろう!)をスローガンに、保護者教育を含めてルール・マナー教育の徹底を図りたい。



## 6. 省エネの推進

引き続き、全校児童に「節電」「節水」等、自分たちができる「省エネ」への意識づけを徹底するとともに、初等学校として積極的に取り組んでいきたい。

## ■ 施設設備面での事業

1. 小グラウンド改修工事
2. 中庭改修工事
3. 講堂の照明設備改修工事(5ヶ年計画の5年目→6ヶ年に延長)
4. 第2校舎改修工事(2年計画の2年目)

## 幼稚園

## ■ 教育面での事業

100周年に向けて、教育改革を行ううえで日々の保育のクオリティを高め、ミッション・ビジョン実現のために園児の生活を第一に考え教育を行うことを考える。

### 1. 100周年に向けて教育内容の改革と充実

学園100周年を2年後に控えた2015年に成城幼稚園は創立90周年を迎える。この長い伝統と諸先輩が作り上げた成城ならではの、個性を認め、一人ひとりに対応するきめ細やかな保育を継承する。さらに時代に合った様子も新たに取り入れるよう検討し、改革を行いたい。そのためには3学年の指導計画を検討し、まとめ、ミッション・ビジョンを達成するためにどのようなことが必要か実際の保育に照らし合わせ考えたい。また、毎年行っている学校評価のご意見も改革の大事な提案として検討に含めたい。

ミッション・ビジョン実現のために、検討されている教育改革の一つである国際化の実践の一步として、ネイティブな教師の発音を耳にしたり、自然な関わりの中で異言語を知り興味を持つように行い園児に合った様子を考える。

### 2. 研修、自己研鑽などによる教職員のスキルアップ

保育のクオリティを高めるために教員は各自でどのように高めるか考え、園内研修を行い一人ひとりの高めた質を共有し、教育改革の礎となるよう研鑽を積む。事務職員は進化するOA機器に対応するスキルアップを行うことや業務の合理化を図るよう努力する。

教育面、事務業務の両分野において充実を目指す。

## ■ 施設設備面での事業

### 1. 園舎修繕

#### \* 外壁塗装

新築より7年目となり園舎外壁の塗装の劣化が進み、早めの手当てを行いたい。

#### \* 階段杭の取り換え

階段の杭交換を行い、出入りの安全を確保するとともに美観を保つ。

### 2. 園庭および遊具の安全確保

#### \* アスレチックチェーン交換

園庭アスレチックの吊り橋チェーンの錆や安全に適さない箇所を修繕。

## ■ 広報面での事業

### 1. 昨年の実績を踏まえ、継続する

昨年度はホームページ、幼児教室、近隣の私立幼稚園15園と情報交換会を開設し、広報と情報の収集を行った。

今年度も引き続き行い、さらに新たな広報を考えたい。

### 2. ポスターを使用し広報する

今年度初めての試みであるが、ポスターを作成し、初等学校の連携をアピールするように掲示する。

幼児教室、外部で行う説明会などで受験生にアピールするように使用し、広報の成果を上げたい。

## 学園全体

## ■ 教育面での事業

平成25年度は、予算編成の基本方針に記載のとおり、通常予算の他に、「成城学園第2世紀プラン教育研究改革特別事業」の予算枠を設けることといたしましたが、その結果、計22件の申請があり、以下の事業を含む11件を採択し、当該校および当該部署の臨時的経費予算に計上しています。

### <大 学>

\* 図書館オープングループワークスペース創設・グループ学習室等改修

\* 3号館コモンズスペース創設・ゼミ教室改修

### <初等学校>

\* カリキュラム改革に伴う第1学年数学科授業新設

### <幼 稚 園>

\* 外国人講師との交流・外国語習得

## ■ 施設設備面での事業

### 1. 安全対策・危機管理関係の主な事業

\* 新哲士寮耐震改修工事

\* 防災備蓄品用倉庫及び防災備蓄品(大学)

\* データバックアップ基盤の構築(大学)

### 2. 省エネルギー対策関係の主な事業

\* 照明器具改修工事(大学・初等学校)

### 3. その他の主な事業

\* 校舎内装改修工事(初等学校)

\* 校庭改修工事(初等学校)

\* テニスコート改修工事(伊勢原総合グラウンド)

## 平成25年度予算の概要

### 資金収支予算

資金収支予算は、教育研究、管理・運営に必要な一切の資金の動きを明らかにするものである。平成25年度の資金収支予算の総額は、前年度予算と比較し3.5%増の規模となった。

#### ■ 収入の部

##### (1) 学生生徒等納付金収入

対前年度予算0.2%増額の84億6,400万円を計上した。  
新入生数を大学は近年の実績から、高等学校・中学校・初等学校・幼稚園は定員数で積算し、各校の納付金額改定を加味した結果、予算計上額は微増となった。

##### (2) 手数料収入

前年度予算とほぼ同額の3億7,200万円を計上した。  
入学検定料については、その大半を占める大学一般入試(A・B方式)を、平成24年度予算と同額程度と見込み予算計上した。高等学校、中学校、初等学校、幼稚園における入学検定料は、近年の傾向を勘案し積算した結果、予算計上額は微減となった。

##### (3) 寄付金収入

対前年度予算7.9%減額の2億5,100万円を計上した。  
特別寄付については、近年の実績から1,000万円を計上した。  
一般寄付については、平成24年度の実績見込をもとに、近年の増減率を加味し積算した2億4,100万円を予算計上した。

##### (4) 補助金収入

対前年度予算3.7%増額の11億7,000万円を計上した。  
国庫補助金については、前年度の実績をもとに積算し、5億3,300万円を計上した。地方公共団体補助金についても近年の実績をもとに算出し、6億3,700万円を計上した。

##### (5) 資産運用収入

対前年度予算30.6%増額の1億1,700万円を計上した。  
平成24年度の実績をもとに、運用環境の変化を反映させ増額計上した。引き続き安全重視の運用方針に変更はない。

##### (6) 資産売却収入

対前年度予算461.5%増額の6億9,100万円を計上した。  
平成24年度予算と同様、運用資産のうち年度内に償還されるものを計上した。

##### (7) 雑収入

対前年度予算1.0%減額の2億4,000万円を計上した。  
平成25年度定年退職者に対する私立大学退職金財団等交付金収入を、対前年度予算800万円減と見込んだことが、微減の要因である。

##### (8) 借入金等収入

東京都私学財団の私立学校入学支度金貸付資金の借入分として、平成24年度の実績から40万円を計上した。

##### (9) 前受金収入

対前年度予算15.0%減額の19億3,700万円を計上した。  
高等学校、中学校における新入生の納付金納入方法の変更により、授業料が対前年度予算2億5,800万円減、施設設備資金が同4,700万円減となったことが主な要因である。

##### (10) その他の収入

対前年度予算14.7%減額の4億9,800万円を計上した。  
前期末未収入金2億7,200万円、預り金受入収入2億2,100万円等を計上したが、補助金が減少したことにより前期末未収入金収入が減少したことが、減額となった主な要因である。

#### ■ 支出の部

##### (1) 人件費支出

対前年度予算0.7%減額の63億5,600万円を計上した。  
退職金を除いた人件費では、対前年度予算500万円減の60億900万円を計上した。また、退職金は、教職員定年退職者分と早期退職者分を計上した。

##### (2) 教育研究経費支出

対前年度予算0.1%増額の21億8,200万円を計上した。  
学生生徒等への就学支援、国際交流促進、省資源・省エネルギー、防犯・防災対策費および危機管理等に係る経費に重点配分したほか、第2世紀事業特別予算を計上した。

##### (3) 管理経費支出

対前年度予算2.0%減額の4億2,200万円を計上した。  
省エネルギー対策費が対前年度予算で1,700万円減少したことが、減額の主な要因である。

##### (4) 借入金等利息支出

対前年度予算18.8%減額の3,100万円を計上した。  
日本私立学校振興・共済事業団からの借入金に対する利息額を計上した。

##### (5) 借入金等返済支出

対前年度予算26.1%減額の1億5,600万円を計上した。  
日本私立学校振興・共済事業団からの借入金、および東京都入学支度金借入資金の返済額を計上した。

##### (6) 施設関係支出

対前年度予算13.7%増額の3億2,400万円を計上した。  
大学5号館等大学各所改修工事費1億300万円、照明器具改修工事費4,700万円、防災・防犯対策費5,400万円等、主に安全・衛生面および省エネルギーの観点から、教育・研究環境の整備に予算計上した。

##### (7) 設備関係支出

対前年度予算11.9%減額の1億7,900万円を計上した。  
教育研究用図書9,000万円のほか、大学3号館・7号館教室における各種機器等の整備・更新費2,500万円、大学教学システムの改修費1,200万円、高等学校内ネットワーク

更新費 1,200 万円等を計上した。

#### (8) 資産運用支出

対前年度予算 139.0%増額の 10 億 1,100 万円を計上した。特定資産への繰入支出は、「中学校・高等学校校舎建設資金引当特定資産への繰入支出」1 億円、将来の施設建設に備えるための「学園施設設備整備資金引当特定資産への繰入支出」1 億円、「創立 100 周年教育環境整備資金引当特定資産への繰入支出」1 億円に加え、新たに「成城学園奨学基金引当特定資産への繰入支出」2,000 万円を計上した。

有価証券購入支出は、年度中に償還期日を迎える債券類のみを同額再投資することとし、対前年度予算 461.8%増額の 6 億 9,100 万円を計上した。

#### (9) 予備費

「創立 100 周年教育環境整備事業」に関する経費が発生することが予想されることから、3 億円を計上した。

### 消費収支予算

消費収支予算は、学園全体の経営状態を示すもので、収支の

均衡の状態とその内容を明示するものである。

平成 25 年度の消費収支予算において、消費収入は、97 億 7,800 万円、一方消費支出は、98 億 8,400 万円であり、1 億 600 万円の支出超過となった。これにより翌年度への繰越消費支出超過額は増加し、49 億 1,000 万円となった。単年度の支出超過の要因は、「創立 100 周年教育環境整備事業」に関する経費の発生に備えた、消費支出の増額計上によるものである。

基本金組入額は、対前年度予算 7.7%減額の 8 億 3,600 万円を計上した。第 1 号基本金については、大学 5 号館改修工事、文連クラブハウス改修工事、50 周年記念講堂改修工事（設計料）、防災・防犯対策費等による建物等の組入 3 億 2,900 万円、教育研究用機器備品、図書をはじめとするその他資産の組入額 1 億 8,800 万円、第 2 号基本金は中学校・高等学校校舎建設に基づく先行組入として 1 億円、学園施設設備整備に基づく先行組入として 1 億円、創立 100 周年教育環境整備に基づく先行組入として 1 億円のほか、新たに学園奨学基金への組入として第 3 号基本金組入額 2,000 万円を計上した。

## 平成 25 年度に実施する主な事業内容

### 学 校 別

(単位：千円)

#### ■ 大 学

|                     |        |
|---------------------|--------|
| 大学 1 号館北面・照明玄関等改修工事 | 37,590 |
| 大学 3 号館小教室映像設備拡充工事  | 15,054 |
| 大学 5 号館改修工事         | 39,900 |
| 大学間連携共同教育推進事業費      | 3,408  |
| 東日本大地震被災者「特別措置」奨学費  | 26,000 |
| シラバスシステム導入等に伴う      |        |
| 教学事務システム改修費         | 11,789 |
| 教育研究用パソコン更新・増設費     | 20,133 |
| 文連クラブハウス・武道場改修工事    | 63,000 |

#### ■ 中学校・高等学校

|               |        |
|---------------|--------|
| 高等学校パソコン環境整備費 | 12,716 |
| 中学校パソコン教室更新費  | 11,097 |

#### ■ 初等学校

|            |        |
|------------|--------|
| グラント整備工事   | 17,273 |
| 中庭人工芝改修工事  | 8,820  |
| 初等学校講堂改修工事 | 15,120 |
| 第 2 校舎改修工事 | 47,536 |

#### ■ その他

|                    |        |
|--------------------|--------|
| 伊勢原グラント各所改修工事      | 16,340 |
| 50 周年記念講堂改修工事設計監理料 | 73,500 |
| 学園内グラウンドデザイン委託費    | 15,750 |
| 「成城学園百年史」編纂関係経費    | 6,633  |

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 創立 100 周年事業関係経費 | 7,118  |
| 父母・卒業生向け広報誌製作費  | 11,088 |
| 富望荘解体工事         | 44,940 |

### 目 的 別

#### ■ 第 2 世紀プラン教育研究改革特別事業 42,504

|                       |        |
|-----------------------|--------|
| 大学院経済学研究科院生研究室の研究環境整備 | 3,469  |
| 文芸学部「マスコミ調査基礎演習」予行演習  | 954    |
| 大学 3 号館ゼミ教室改修         | 4,520  |
| 大学 3 号館コモンズスペース創設     | 2,170  |
| 図書館オープングループワークスペース創設  |        |
| およびグループ学習室等改修         | 28,903 |
| 初等学校カリキュラム改革に伴う       |        |
| 第 1 学年数学科授業新設         | 2,005  |
| 幼稚園外国人講師との交流・外国語習得    | 483    |

#### ■ 安全対策・危機管理関係経費 75,918

|                 |        |
|-----------------|--------|
| 新哲士寮耐震工事        | 47,985 |
| 防災備蓄品および備蓄用倉庫整備 | 8,583  |
| 大学データバックアップ基盤構築 | 10,920 |
| その他             | 8,430  |

#### ■ 省エネルギー対策経費 47,082

|                |        |
|----------------|--------|
| 大学各所照明器具改修工事   | 28,140 |
| 初等学校校舎照明器具改修工事 | 18,942 |



大正6(1917)年に、澤柳政太郎が日本の初等教育改造を志し、実験的教育の場として創設した成城小学校から始まる成城学園は、平成29(2017)年に創立100周年を迎えます。

成城学園が総合学園として更なる飛躍を遂げるためには、厳しい学校経営環境を正面から見据えて、学園創設以来受け継がれてきた建学の理念の下に策定した「成城学園第2世紀ビジョン」の実現に向け、更なる教育・研究の質の向上を推進していく必要があります。

今般、教育・研究の質の向上を推進するための長期計画である「成城学園第2世紀プラン」を具体的に実行するために、平成24年度を初年度とした10年間の長期財務計画を策定し、この計画の大枠の下で予算編成を行います。

＊長期財務計画の概要

- ①第2世紀プラン総事業費として10年間で148億円を計上
- ②平成25年度入学者からの校納金改定
- ③20億円の資金借入れ
- ④創立100周年事業寄付最低目標額10億円の計画

このように、成城学園の未来を切り拓くために、今後10年間は教育研究改革推進のための積極的な資金投入、及び次世代に残す教育施設・設備への投資拡大を行います。そのためには、学生生徒等の安定的な確保ほか、国(庫)からの私学助成(経常費補助)が縮小傾向にあるなか、補助金、外部資金等の積極的な獲得、入学時寄付金の維持等、各年度の帰属収入の安定的確保が求められます。その一方、支出面でも、増加傾向にある人件費の抑制をはじめとした諸経費の削減と業務の合理化が必要となります。

＊予算編成にあたっての留意事項

- ①人件費の抑制、及び人件費比率60%以内を目標とする総額管理
- ②経常的経費と臨時的経費の総枠管理(前年度比マイナス3%シーリング)

更に、社会的な要請としての国際交流促進等によるグローバル人材育成への取り組み、学生生徒等への就学支援の強化、地球温暖化防止や環境保護の観点からの省資源・省エネルギーに向けた長期的な取り組み、学生生徒等の健康管理、防犯・防災等の安全対策、大規模災害発生時への対応のための態勢整備等へは、予算編成において十分な配慮が必要と考えます。

これからの10年間は、正に成城学園の生き残りをかけた闘いとなり、社会情勢・経済環境及び学園を取り巻く教育研究環

境の変化を踏まえ、来るべき成城学園の第2世紀に向け、学園がその地位を更に高め、真に教育力の優れた学校として認められるよう、全学園を挙げて「第2世紀ビジョン」の実現に向けて具体的な行動をとるべき期間と考えます。

以上を踏まえ、平成25年度の予算編成についての基本方針を次のとおり策定いたしました。

## 予算編成の基本方針

「成城学園第2世紀プラン」に基づき実行される教育研究改革事業については、最優先に予算措置を行う。その他の教育研究改革に資する事業に関しては、その計画の検討に伴い発生する経費も含め、必要に応じ予算措置が図れるよう、柔軟に対応するものとする。

上記の措置に伴い、第2世紀プラン以外の事業予算の積算にあたっては、経常的経費については、過年度の実績を基に合理化を図り、原則として前年度比マイナス3%をベースに、臨時的経費については原則としてゼロベースをもって行い、経常的経費と臨時的経費の総枠について、前年度比マイナス3%とする。また、収入・支出各予算については、以下に留意し積算するものとする。

### (1)収入面については、収入財源の安定的かつ積極的な確保を図る。

#### ①学生生徒等納付金

帰属収入の根幹となる学生生徒等納付金については、収入財源の安定的確保の見地から、特に大学入学者数について一定数を確保すること。

#### ②手数料

入試制度の見直し、広報活動のより積極的な展開等により、受験者数の増加を図ること。

#### ③寄付金

一般寄付については、入学時に限らず逐次要請を行う等、きめ細かく対応すること。

特別寄付については、創立100周年事業募金について検討を進めること。

#### ④補助金等

補助金については、積極的に情報収集をし、その内容の精査を行い、更なる補助金の獲得を図るよう努めること。

また、研究助成団体等からの研究費等、外部資金の積極的な導入を図ること。

#### ⑤資産運用収入

安全・確実を原則としつつ、より積極的な資産運用により、運用収益の増加を図ること。

(2) 支出面については、業務の合理化等により、諸経費の削減を図る。

但し、国際交流促進、学生生徒等への就学支援、省資源・省エネルギー、学生生徒等の健康管理、防犯・防災対策及び危機管理等に係る経費については、必要な予算措置を行う。

① 教育(研究)施設・設備投資

「成城学園第2世紀プラン」対象外の既存施設・設備の改修・修繕等については、できる限り必要最低限の範囲に止める、若しくは次年度以降に繰り延べること(改修・修繕工事が複数年度に亘ることが見込まれる場合は、総事業計画と平成25年度計画を併記して予算要求すること)。

また、教育研究施設・設備の整備・改修にあたっては、省資源・省エネルギー、環境保護に十分配慮すること。

② 人件費

引き続き総額管理のなかで、適正要員配置等の合理化を目指し、人件費比率を60%以内とすること。

③ 諸経費の節減

物品類の購入等にあたっては、発注方法等を検討し、経費支出の節減を図ること。

また、情報化関連投資にあたっては、ハード・ソフト両面について、一元化・統合化を図り経費支出の節減に努めること。

これらの実現のため、(組織の改編を含む)事務管理部門の合理化を図ること。



## 平成25年度 資金収支予算 要約

(単位：千円)

| 収入の部       |            |            |          |
|------------|------------|------------|----------|
| 科 目        | 平成25年度     | 平成24年度     | 比較増減     |
| 学生生徒等納付金収入 | 8,463,609  | 8,449,256  | 14,353   |
| 手数料収入      | 372,464    | 372,391    | 73       |
| 寄付金収入      | 251,300    | 273,000    | △21,700  |
| 補助金収入      | 1,169,973  | 1,128,446  | 41,527   |
| 資産運用収入     | 117,173    | 89,717     | 27,456   |
| 資産売却収入     | 691,000    | 123,073    | 567,927  |
| 事業収入       | 0          | 1,870      | △1,870   |
| 雑収入        | 239,966    | 242,494    | △2,528   |
| 借入金等収入     | 400        | 400        | 0        |
| 前受金収入      | 1,936,522  | 2,277,513  | △340,991 |
| その他の収入     | 498,206    | 583,953    | △85,747  |
| 資金収入調整勘定   | △2,253,067 | △2,535,728 | 282,661  |
| 小 計        | 11,487,546 | 11,006,385 | 481,161  |
| 前年度繰越支払資金  | 7,646,452  | 7,479,493  | 166,959  |
| 収入の部 合 計   | 19,133,998 | 18,485,878 | 648,120  |

| 支出の部                        |            |            |          |
|-----------------------------|------------|------------|----------|
| 科 目                         | 平成25年度     | 平成24年度     | 比較増減     |
| 人件費支出                       | 6,356,357  | 6,402,032  | △45,675  |
| 教員人件費支出                     | 4,078,535  | 4,119,939  | △41,404  |
| 職員人件費支出                     | 1,872,514  | 1,835,842  | 36,672   |
| 役員報酬支出                      | 57,805     | 57,998     | △193     |
| 退職金支出                       | 347,503    | 388,253    | △40,750  |
| 教育研究経費支出                    | 2,182,023  | 2,179,623  | 2,400    |
| 管理経費支出                      | 422,390    | 430,844    | △8,454   |
| 借入金等利息支出                    | 31,320     | 38,574     | △7,254   |
| 借入金等返済支出                    | 156,140    | 211,290    | △55,150  |
| 施設関係支出                      | 324,420    | 285,382    | 39,038   |
| 設備関係支出                      | 179,432    | 203,781    | △24,349  |
| 資産運用支出                      | 1,011,000  | 423,000    | 588,000  |
| 有価証券購入支出                    | 691,000    | 123,000    | 568,000  |
| 中学校・高等学校校舎建設資金引当特定資産への繰入支出  | 100,000    | 100,000    | 0        |
| 学園施設設備整備資金引当特定資産への繰入支出      | 100,000    | 100,000    | 0        |
| 創立100周年教育環境整備資金引当特定資産への繰入支出 | 100,000    | 100,000    | 0        |
| 成城学園奨学金基金引当特定資産への繰入支出       | 20,000     | 0          | 20,000   |
| その他の支出                      | 670,633    | 673,967    | △3,334   |
| [予備費]                       | 300,000    | 400,000    | △100,000 |
| 資金支出調整勘定                    | △378,161   | △427,204   | 49,043   |
| 小 計                         | 11,255,554 | 10,821,289 | 434,265  |
| 次年度繰越支払資金                   | 7,878,444  | 7,664,589  | 213,855  |
| 支出の部 合 計                    | 19,133,998 | 18,485,878 | 648,120  |

## 平成25年度 消費収支予算 要約

(単位：千円)

| 消費収入の部     |            |            |         |
|------------|------------|------------|---------|
| 科 目        | 平成25年度     | 平成24年度     | 比較増減    |
| 学生生徒等納付金   | 8,463,609  | 8,449,256  | 14,353  |
| 手数料        | 372,464    | 372,391    | 73      |
| 寄付金        | 251,300    | 273,000    | △21,700 |
| 補助金        | 1,169,973  | 1,128,446  | 41,527  |
| 資産運用収入     | 117,173    | 89,717     | 27,456  |
| 事業収入       | 0          | 1,870      | △1,870  |
| 雑収入        | 239,966    | 242,494    | △2,528  |
| 帰属収入 合 計   | 10,614,485 | 10,557,174 | 57,311  |
| 基本金組入額     | △836,441   | △906,003   | 69,562  |
| 消費収入の部 合 計 | 9,778,044  | 9,651,171  | 126,873 |

| 消費支出の部      |            |            |          |
|-------------|------------|------------|----------|
| 科 目         | 平成25年度     | 平成24年度     | 比較増減     |
| 人件費         | 6,318,038  | 6,341,238  | △23,200  |
| 教員人件費       | 4,078,535  | 4,119,939  | △41,404  |
| 職員人件費       | 1,872,514  | 1,835,842  | 36,672   |
| 役員報酬        | 57,805     | 57,998     | △193     |
| 退職金         | 16,102     | 13,095     | 3,007    |
| 退職給与引当金繰入額  | 293,082    | 314,364    | △21,282  |
| 教育研究経費支出    | 2,824,351  | 2,804,128  | 20,223   |
| 経費          | 2,182,023  | 2,179,623  | 2,400    |
| 減価償却費       | 642,328    | 624,505    | 17,823   |
| 管理経費支出      | 454,872    | 461,507    | △6,635   |
| 経費          | 422,390    | 430,844    | △8,454   |
| 減価償却費       | 32,482     | 30,663     | 1,819    |
| 借入金等利息支出    | 31,320     | 38,574     | △7,254   |
| 資産処分差額      | 55,202     | 17,297     | 37,905   |
| [予備費]       | 200,000    | 100,000    | 100,000  |
| 消費支出の部 合 計  | 9,883,783  | 9,762,744  | 121,039  |
| 当年度消費収支差額   | △105,739   | △111,573   | 5,834    |
| 前年度繰越消費収支差額 | △4,803,946 | △4,527,533 | △276,413 |
| 翌年度繰越消費収支差額 | △4,909,685 | △4,639,106 | △270,579 |